



2009年の大学4年の最後の夏休み、私は中国に旅立った。
 私の旅はたいていの人たちが思い込むのとは違った目線、
 自分自身で感じ思い考えた上で世の中を見ようと
 思い、この留学に参加した。そこに行って初めて見えるもの、
 その場にいなければわからない世界を見てみたかったのだ。
 2009年8月26日。日本では総選挙で人々が「政権交代」と騒いでいる間、
 私は中国ハルビンに降り立った。
 広大な平野に登りきった太陽、止まないクラクションの音、行きかう人々。
 すべてが新鮮で前夜に体に取り込みまくったアルコールがうそのように引いて行った。
 素晴らしい始まりだと思った。



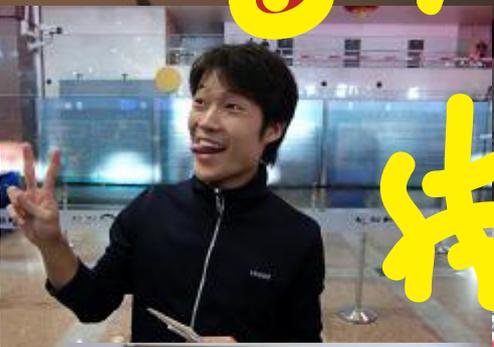
と思ったのもつかの間。重大な事実気付いた。
 人民元を持っていない。
 夕暮れ。
 腹ペコ。
 ここどこ？
 私たちは路頭に迷った。もちろんここは中国、ハルビン。何にもわからない。
 早くも中国の洗礼を受けた感じがした。
 「イーアーイー！」
 列をなした、大勢の軍人の列が何かを叫びながら去って行った。
 (後にただ、1, 2, 1と喋っているにすぎないと分かった)



ハルビン留学



体験記



知能機械工学科

4年 小池 仁